

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立本庄小学校）

平成30年9月25日

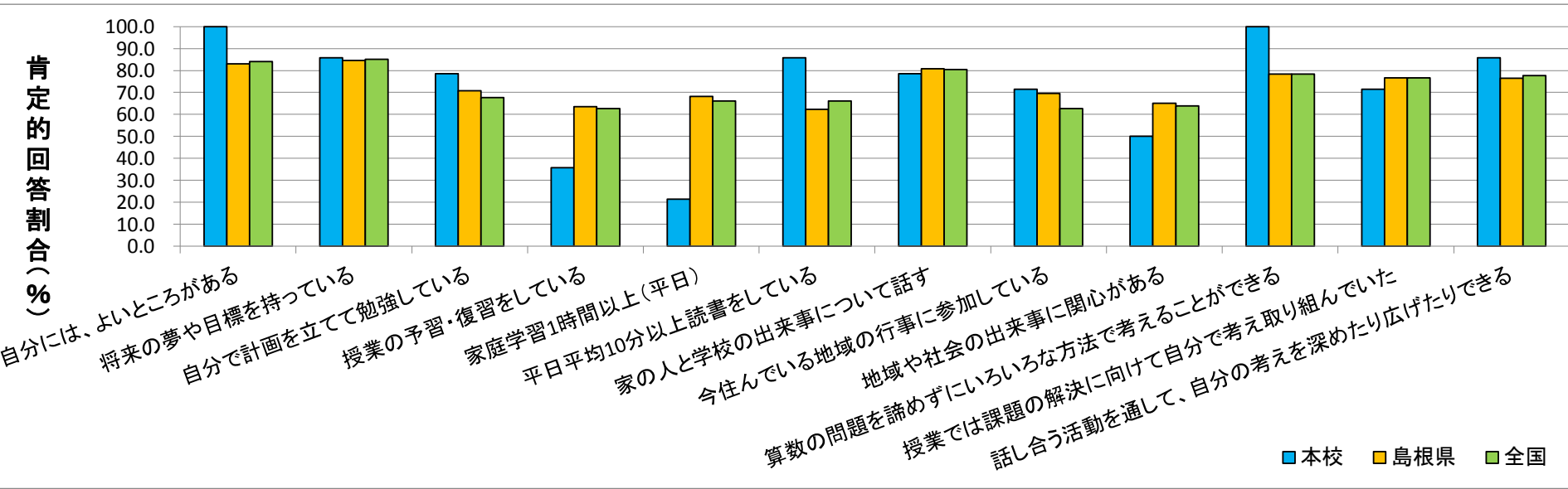
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○会話文から状況を把握することができている。また、無解答率が全国平均より低く、あきらめずに問題に取り組む様子がうかがえた。 ●状況と景色や様子を表す表現を関連させ、心情を捉えることができない。 ●漢字のもつ意味、用法について定着に課題がある。	・読書活動を推進し、文章を読むことに慣れる。また、読み取る力を高める。 ・書きとり会の取組を継続するとともに、漢字のもつ意味や熟語としての用法にも興味を向けるよう指導を工夫する。
	B (活用)	○記述式の無解答が少ない。特に、前後の文章を読んで間の文章を書く問題が優れていた。 ●複数の条件がある問題に対応しにくい。そこに字数制限がかかると、さらに苦戦していた。また、大事なことを捉えずに、表面的に読んで選択肢を選んで様子うかがえた。	・条件に合わせて書く、特に目的に応じて詳しく書いたり短く書いたりする学習に力を入れる。 ・段落の中で大事なこと、または大事な一文が捉えられるように、4年生までに確実に指導する。
算数	A (基礎)	○角の大きさや百分率の意味等、よく理解して求めることができる。また、公式をよく暗記していて、活用できている。 ●小数の除法の意味理解が不十分で、立式に結びつきにくい。 ●長文で複数の答えを求める発問では、題意をつかめないために正答率が下がっていた。	・放課後の「ぐんぐんタイム」や日々の個別支援等の取組を継続して、基礎基本の定着を図る。 ・日常生活の中で幅広くいろいろな文章に触れて読み取る力を高め、聞かれていることを正確に捉えられるようにする。
	B (活用)	○数量関係を言葉と数を用いて説明したり、根拠を明確にして式や言葉で説明したりする記述問題の正答率が高かった。無回答率も低い。 ●グラフの読み取り、複数の観点で考えたり表現したりする問題に課題が見られた。	・係や委員会活動、他の教科等日常生活の中で情報を収集し、表やグラフなどに整理して考えたり表現したりする。
理科		○実験を十分に行ったものについては正答率が高い。 ●実験操作と実験の目的やめあてを理解していない	・学習内容を日常生活と結びつけながら考察したり、まとめたりする。 ・目的が理解できたか確かめることも含め、実験時間を十分に確保する。

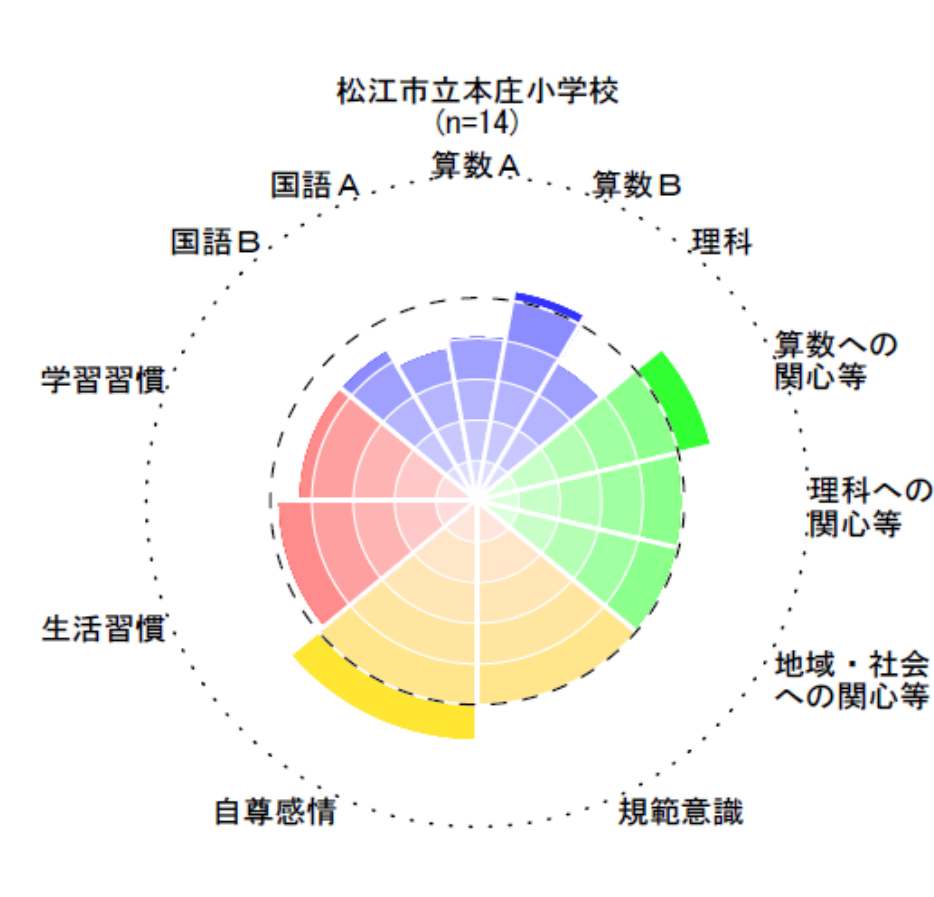
(2) 生活意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
		○放課後や夏季休業中に地域の人に勉強を教えてもらっていることが、子どもたちの意識にも反映されている。 ○算数における授業改善が、児童の学習への取り組み方により影響を与えている。 ●家庭学習の時間がほとんどの児童が1時間未満と少ない。 ●調査問題の解答時間が足りない。	・家庭学習の時間が少ない分、スポーツに時間を充てている実態を家庭や地域に周知し、今後どのように取り組んでいくのか、学校、家庭及び地域で考えていく。 ・読む力を高めたり、本や新聞を読む機会を増やしたりする。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・学び合う・伝え合う力を伸ばす授業づくりを行う。 ・地域ボランティアの方による読み語りや、図書館の整備など、児童の読書活動への意欲が高まる取組を継続する。 ・家庭と連携した月1回の「書きとり会」「計算会」や、地域の教育力を活用した学習支援等を継続し、基礎学力の定着を図る。
--

【参考】

○平均正答率

		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	61	70	68	70.7
	B	48	57	55	54.7
算数	A	55	62	61	63.5
	B	53	50	49	51.5
理科		52	59	58	60.3

受検者数 14 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。